

rara-ca

Vol.07
2024 AUTUMN
セントラル愛知交響楽団
特別情報誌

音合わせ心ひとつに「ら」でチューニング… Central Aichiの情報をお届け

「第九」シーズン到来!

セントラル愛知交響楽団
市民合唱団による
悠久の第九

ベートーヴェン：劇音楽「エグモント」序曲 Op.84
ヴェルディ：オペラ「椿姫」より“ああ、そはかの人か”〔飯田みち代〕
プッチーニ：オペラ「トゥーランドット」より“誰も寝てはならぬ”〔福井敬〕
ベートーヴェン：交響曲第9番ニ短調 Op.125〔合唱付〕

ソプラノ 飯田みち代 メゾ・ソプラノ 谷口睦美 テノール 福井敬 バリトン 加未徹



12/19(木) 悠久の第九

〔開演18:30〕
愛知県芸術劇場コンサートホール
〔出演〕小松長生、飯田みち代(S)
谷口睦美(Ms)、福井敬(T)
加未徹(Br)

セントラル愛知の第九

年末に向かい今年もベートーヴェン交響曲 第9番(第九)のシーズンがやってきます。今年は5年ぶりに「市民合唱団による 悠久の第九」を開催します。当団の第九演奏の歴史を振り返りますと…1983年にナゴヤシティ管弦楽団として発足し、4年後の1987年に第1回の第九演奏会、翌1988年に第1回定期演奏会という記録があり、定期演奏会よりも先に第九

演奏会を開催していたことがわかります。その後は「市民合唱団による第九の夕べ」として演奏し、21世紀となった2001年に、長く続ける意を込めて「市民合唱団による 悠久の第九」へタイトルを変更しました。4人のソリストと公募による市民合唱団の歌声で、毎回熱い演奏をお届けしています。今年もご来場の皆様に素晴らしい演奏をお聴きいただけるものと考えております。ホールいっぱいに響き渡る「歓喜の歌」、ぜひご体感ください。

◆時を超えて、愛をつらぬく閃光のような音楽——「悠久の第九」に向けて

もっぱら「第九」という愛称で知られる傑作——年末を迎えるとあちこちで上演されて、誰でも口ずさめるレベルでおなじみの作品でしょう。むかし記事を書くために調べたら、12月だけで153回もの〈第九〉公演がおこなわれていてびっくりしたことがありました。その後、景気の変動などで減りはしたものの、歳末の風物詩のように広く愛される音楽であることは変わりません。

オーケストラと共に有名な《歓喜の歌》が歌われる終楽章では、その日のために声を磨き抜いて挑む、地元の優れた市民合唱団が参加したりと、地域密着型の公演も各地でおこなわれてきました。〈年末の第九〉が、日本の合唱文化や音楽愛好家の裾野を豊かに広げてきた意義は、決して小さくありません(だからこそ、コロナ禍で大規模な合唱作品の上演が出来なくなっていたのは、本当に痛恨の事態でした…)

《歓喜の歌》と俗称されますが、この歌詞となった詩《歓喜に寄す》を書いたのは、ドイツの詩人・劇作家・思想家シラー(18世紀ドイツで文豪ゲーテと並ぶ大家でした。余談ながら、太宰治が彼の詩をもとに書いたのが有名な『走れメロス』)。熱い人類愛をうたったこの詩は、1786年に発表されると大反響を呼び、ドイツ各地で〈飲み歌〉として歌われ、研究によるとその後50人を越える作曲家が曲をつけているほどの大衆歌となっていたとか。

作曲家ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)も、このシラー《歓喜に寄す》に魅せられた一人でした。彼は青年時代からこの詩に曲をつけようと折に触れてスケッチを始め…聴覚の障害や芸術的な苦闘を超えてゆく

か、彼のスケッチブックには幾度も《歓喜》のメロディが浮かんで消えてゆきます。それが〈第九〉のフィナーレの大合唱へと組み込まれて実現するまで、なんと30年近くかかってしまいました。

大衆歌としておなじみだったシラー作品を、作曲家は壮大な交響曲の終楽章に据えます。—— 声楽が現れるまでの3楽章は、オーケストラが全力で表現する崇高な音世界。冒頭からインパクトも絶大ですが、鮮やかに躍り駆ける第2楽章の壮大なスケールといい、続く長大な第3楽章の、たおやかな光が溢れ流れる、美しく安らかな音世界も絶品。そこから一転して、終楽章だけ声楽を加えて、さらに劇的な展開をみせます。もろびとの抱き合う歓喜の世界、全世界に放たれる美しい神の閃光…

この〈第九〉—— 交響曲 第9番 ニ短調 作品125《合唱つき》が発表されたのは1824年のこと。そう、今年が〈第九〉が世界初演されてからちょうど200年、という節目の年にあたります。ホールを大きく包み込む歓喜の融合に、言葉と音が共に抱き合うこの傑作は、闘いやまめ現代においてこそ、深いメッセージを響かせるでしょう。悠久の第九は、生きているのです。

山野雄大 /ライター[音楽・舞踊評論]、『音楽の友』『バンドジャーナル』など雑誌・新聞への寄稿をはじめ、NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」他ラジオ出演も。第一生命ホールでのコンサートシリーズ《雄大と行く 昼の音楽さんぽ》ナビゲーターを務めたほか、CD解説、オーケストラやバレエ公演の解説、歌詞対訳など多数。朝日カルチャーセンター新宿教室でバレエ音楽講座を開設中。

定期演奏会

11/4(月・祝)

第207回定期演奏会 「夢～愛・童心・幸福～」

開演 14:30

愛知県芸術劇場コンサートホール

[出演] 角田鋼亮、名古屋少年少女合唱団(合唱)

[プログラム] チャイコフスキー:バレエ音楽「くるみ割り人形」Op.71

指揮者 **角田鋼亮**

SPECIAL MESSAGE



©Makoto Kamiya

私がセントラル愛知響の指揮者になってから毎年必ず演奏するようにしていたバレエ作品。今シーズンのテーマ「新しい景色、新しい音世界」に合わせて、様々な「情景」からなるチャイコフスキーの『くるみ割り人形』を選択いたしました。第二幕ではスペイン、アラビア、中国、ロシア等、世界各地の踊りも音で感じて頂けます。またチャイコフスキーの最晩年の作品という事もあり、オーケストレーションも実に巧みで、打楽器、ハーブやチェレスタを使用した極彩色のサウンドや名古屋少年少女合唱団の歌声とブレンドされた夢見のような新しい音世界も体感して頂けると思います。

バレエ音楽で大事なものはテンポ感。純粋に音楽だけに向き合った時に理想とされるテンポで音楽を運べたらと思っています。クリスマスシーズンに先駆けて皆さんとおとぎの世界を旅できる事を楽しみにしています。



プラチナ¥7,000 S¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額

'25 1/11(土)

第208回定期演奏会 「夢～恋・幻覚・狂乱～」

開演 14:30

愛知県芸術劇場コンサートホール

[出演] 広上淳一、神尾真由子(Vn)

[プログラム] チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.35
ベルリオーズ:幻想交響曲 Op.14

一般発売
10/2(水)

指揮 **広上淳一**

広上淳一さんは、日本を代表する指揮者の一人として国内外で高い評価を受けています。情熱的かつ緻密な指揮スタイルが特徴で、特にオーケストラとの一体感を重視した演奏が魅力です。今回の第208回定期公演で広上さんをお招きした背景には、彼の独自の音楽的解釈とリーダーシップが新たな響きを生み出すことへの期待があります。その圧倒的な存在感と繊細な音楽表現で、聴衆に感動を与えること間違いありません。ぜひ、この機会に広上淳一さんの指揮でお楽しみください。



©Masaaki Tomitori

ヴァイオリニスト **神尾真由子**

SPECIAL MESSAGE



©Makoto Kamiya

2024年2月、三井住友海上しらかわホールでの最後の定期公演にて、角田鋼亮音楽監督率いるセントラル愛知の皆さんと演奏することができ、とても充実した時間を過ごす事ができました。今回再び出演できることを大変嬉しく思います。それに加えて、今回は私の一番の得意曲であり大好きな曲であるチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲です。人の心の琴線に触れるに達しない、ドラマチックで素晴らしい名曲ですので、きっと楽しんでいただけることと思います。私にとっても子供の頃から憧れの曲で、何十年経ってもその魅力は褪せることを知らず、弾くたびに喜びを感じさせてくれます。是非お越しいただき、聴いていただければ幸いです。

プラチナ¥7,000 S¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額

超! 有名曲

10/27(日)

超!有名曲シリーズ Vol.8 「スペイン」

開演 14:30

愛知県芸術劇場コンサートホール

[出演] 松尾葉子、村治佳織(G)、鈴木美良乃(FI)、三輪陽子(Ms)

[プログラム] シャプリエ:狂詩曲「スペイン」、ロドリゴ:アランフェス協奏曲
フランソワ・ポルヌ:カルメン・ファンタジー(ジャンカルロ・キアラメッコ版) ほか

指揮者 **松尾葉子**

SPECIAL MESSAGE



太陽と情熱の国・スペインから熱い音楽をお届けします。シャプリエの描いた生き生きとした『スペイン』。リズムが躍動的で人々の輪に引き込まれそうです。『アランフェス協奏曲』はギターの名曲で、せつない旋律が心に響きます。村治佳織さんの素晴らしいギターのリズムをお楽しみいただけます。そして、ファリャの『三角帽子』です。この曲は各所にスペイン独特の踊りのリズムが使われています。ファルッカ、ホタなどの激しいリズムや、哀愁をおびた旋律がちりばめられた色彩豊かな曲です。ファリャは晩年、アルハンブラ宮殿のあるグラナダで過ごしました。この曲の舞台・衣装を担当したのは、何と世界的な巨匠ピカソだったので。活気あふれる舞台の雰囲気を感じていただくと嬉しいです。

ギタリスト **村治佳織**

SPECIAL MESSAGE

『アランフェス協奏曲』は私にとっては、自分の心の定点観測のような曲です。これまでに100回近く、ステージで演奏してきました。

回数を重ねても毎回、新鮮な気持ちで取り組んでいます。今回、セントラル愛知響楽団さんの自主公演での『アランフェス協奏曲』の共演は初めてということで、マエストラ松尾葉子さんと共演も含めて本当に楽しみです。一楽章はフラメンコのダンスを想像させるリズムから始まり、新緑の空気を吸いながら、風を受けて風光明媚な場所を駆け抜けていく雰囲気です。二楽章はご説明するまでもなく有名なメロディーを堪能していただけたらと思います。三楽章では、天空の宮廷で開催される優雅な舞踏会を想うことがあります。もっとも、これは私自身のイメージです。当日は自由に心を飛ばしてお客様にお聴きいただけたらと願っております。



©Kazumi Kiuchi

S¥5,000(Sペア¥7,000[完売]) A¥4,000(Aペア¥5,600)
B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額(ペア席対象外)

'25 1/12(日)

超!有名曲シリーズ Vol.9 「ウィーン」

開演 14:30

愛知県芸術劇場コンサートホール [出演] 松尾葉子、金原聡子(S)

[プログラム] モーツァルト:交響曲 第40番 短調 K.550(第2稿)
ヨハン・シュトラウスII世:美しく青きドナウ Op.314 ほか

一般発売
10/2(水)

指揮者 **松尾葉子**

SPECIAL MESSAGE



2025年の幕開けはウィーンで始まります。まずモーツァルトの『交響曲 第40番』をお聴きいただきます。この曲は数ある彼の交響曲の中でも珍しく短調で作曲されています。最初の旋律は切なさや溢れていて、一度聴いたら忘れられない交響曲になります。そして、新年は何とんでもワルツです。有名なオペレッタ『こうもり』序曲、ワルツ『金と銀』、『美しく青きドナウ』など、美しい旋律が散りばめられた数々の名曲をお贈りします。ソプラノ歌手の金原聡子さんも加わり、メリー・ウイドウの『ヴェリアの歌』、こうもりから『チャルダッシュ』という高音・超絶技巧の素晴らしい歌声がホールに響きます。新年を祝って、少しオシャレをしてコンサートホールにお出かけしてみたいかがでしょうか。

S¥5,000(Sペア¥7,000) A¥4,000(Aペア¥5,600) B¥3,000 C¥2,000
※U25各席半額(ペア席対象外)

ハイドンのロンドン精神 Vol.5 12/6金 [開演18:45] 電気文化会館ザ・コンサートホール

[出演]角田鋼亮 [プログラム] ボッケリーニ:交響曲 二短調 Op.37 No.3、ハイデン:交響曲 第101番 二長調「時計」、交響曲 第102番 変ロ長調

指揮者 角田鋼亮

SPECIAL MESSAGE

「ハイドンのロンドン精神」もお陰様で今回で第5回を迎える事となりました。少しずつ名古屋でのハイデン愛好家が増えてきているようで、心から嬉しく思っております。前回演奏した『軍隊』は、「ハイデンが現代に蘇ったらどうするのか」をテーマに、私の空想からの演出付きでお楽しみ頂きましたが、今回は純粋に音楽の内容で勝負できたらと思っております。

『時計』は第1楽章が音階から出来ている事やテンポが速いこともあり、彼の持ち前のユーモアよりも全体の激まない流れが魅力的な作品です。102番はロンドンセットの中で私が一番好きな作品。私がこの作品にあだ名をつけるならば「変態紳士」。一聴とても堂々としていて優雅さもありますが、ところどころ「えー!」と叫びたくなるような意外性が顔を出します。

1曲目に演奏するのは「ハイデン夫人」とも呼ばれるボッケリーニの二短調の交響曲。ハイデンとは対照的な憂いや晴れと雨の合間を行き来する様な雲田気の移り変わりをお楽しみ下さい。さあ、最終回まであと2回です。我々の『時計』と一緒に時を刻みましょう。 [料金] 全席指定 一般¥4,000 U25¥1,000



©Makoto Kamiya



「ハイドンのロンドン精神 Vol.4」より

オペラハイライト「カルメン」可児公演 11/16土 [開演14:30] 可児市文化創造センター ala 主劇場

[出演]角田鋼亮、林美智子(Ms)、中井亮一(T)、近野賢一(Br)



この度、オペラハイライト可児公演「カルメン」を共催することになりました。セントラル愛知交響楽団は、地方都市との連携を強化して継続的な文化交流を図ることで、地域全体の文化レベルの向上に寄与することを活動方針の一つとしています。その一環として可児市文化創造センターの協力を得て、この公演の実現となりました。オペラ「カルメン」は情熱的な音楽とドラマティックなストーリーで、世界中の観客を魅了し続けている名作です。今回の公演は、前半にオペラ「カルメン」をハイライト形式でお届けし、後半はオペラの名アリアをお聴かせするという構成で、初めてオペラに触れる方々にも楽しんでいただける内容となっています。

[料金] 全席指定 一般¥6,000 U25¥3,000

[チケット取扱い] 可児市文化創造センター・インフォメーション TEL.0574-60-3050(9:00~19:00 火曜日休館) アーラウェブサイトからインターネット予約

TOPICS [トピックス]

◆第24回 岩倉市ジュニアオーケストラ定期演奏会

9月1日(日)に当団が指導を担当している岩倉市ジュニアオーケストラの定期演奏会が開催されました。今回は台風10号の影響で開催が危ぶまれる中、さらに新幹線の運休により指揮の阿部未来さんがリハーサル1日目に間に合わなくなるという事態が発生。一時はどうかと心配しましたが、阿部さんはリハーサル2日目は愛知県に到着され、台風も接近することなく無事に本番を終えることができました。

今回はブラームスの『ハンガリー舞曲 第1番・5番・6番』、ネルーダの『トランペット協奏曲』、ドヴォルザークの『交響曲 第9番「新世界より」』を演奏。『ハンガリー舞曲 第5番』では単科クラス(初心者クラス)のメンバーが参加し、この日がオーケストラデビューとなりました。『トランペット協奏曲』ではOGの安藤百華さんがソリストとして出演。素敵な演奏で聴衆を魅了しました。メイン曲の「新世界より」では熱気溢れる素晴らしい演奏を披露。演奏後も拍手がしばらく鳴り止みませんでした。

定期演奏会が終わったばかりですが、次の本番(11月3日岩倉市民音楽祭・11月10日ふれあい祭り)に向けて練習が始まっています。



画像提供:岩倉市

◆「おおぶジュニア弦楽団」 設立記念コンサート&バイオリン体験会

大府市が市内在住の小学生から高校生を対象とした弦楽団を9月に設立する記念として、7月31日(水)に「おおぶ文化交流の杜allobu」で開催されました。

当団楽員の指導による体験会には子どもたち約30名が参加して、弓の持ち方や楽器の構え方、音の出し方などを体験、そして最後には全員で「きらきら星」の大合奏を楽しみました。

体験会の後は当団の弦楽器セクションによるコンサートで、クラシックの弦楽合奏の名曲に加えて、ディズニーやスタジオジブリ作品など、子どもたちにとって馴染みで親しみやすい曲の演奏をし、大好評でした。

9月末から活動がスタートする弦楽団には、この体験会やコンサートに参加した子どもたちを含めて、30名を超える入団希望がありました。当団が指導にあたり、大府市市制55周年を迎える来年度にお披露目演奏会を予定しています。



画像提供:大府市

オーケストラ Q&A



「オーケストラQ&A」の質問募集

セントラル愛知交響楽団ホームページ内の「rara-ca」ページにある質問フォームから、オーケストラについて疑問に思っていること、聞いてみたいことなどお送りください。



<https://www.caso.jp/faq-form/>

Q1 カスタネットはどこ の楽器？

A カスタネットはスペインで発達した楽器です。スペイン語で「栗の実」を意味する「カスターニャ」が語源になっています。起源は諸説ありますが、古代エジプトの儀式で使われていた長さ30cmほどの、主に木材から作られた楽器が起源と言われていいます。その後ギリシャ、イタリアと渡り、スペインで改良され「カスタネット」が誕生しました。

Q2 カスタネットの種類は どんなものがある？

Q1 カスタネットは どこの楽器？

A 皆様一度は手にされたことのある赤色と青色の「教育用カスタネット」(写真①)、実は日本で生まれました。カスタネットを簡略化し幼児でも演奏しやすくした楽器「ミハルス」を元に作られた楽器です。「ミハルス」も日本で生まれた楽器です。

オーケストラやフラメンコなどで使用する「コンサートカスタネット(スパニッシュカスタネット)」(写真②)は貝殻型で材質は黒檀、薔薇の木、ファイバーグラス、繊維など様々です。その他、「柄付きカスタネット」(写真③)、「金属製カスタネット」(写真④)、「マシン・カスタネット」(写真⑤)、振ることで音の出る「フラッパーカスタネット」(写真⑥)、ケルト音楽で使用する「スプーンカスタネット(アイリッシュスプーン)」(写真⑦)などもあります。

Q3 カスタネットが活躍する オーケストラ曲は？

- A**
- リムスキー=コルサコフ:スペイン奇想曲
 - ファリャ:「三角帽子」
 - R.シュトラウス:「サロメ」7つのヴェールの踊り
 - サン=サーンス:サムソンとデリラ
(金属製カスタネットが使用されます)
 - アルベニス/山本教生吹奏楽編曲:
「スペインの歌」コルドバ
(私が中学2年の吹奏楽コンクールで
カスタネットを担当した思い出深い曲)



(ティンパニ・打楽器奏者 片山陽平)

クラシックこぼれ話 マーシー山本教授の

ハ〜イ皆さん! マーシー山本です。
今回はオペラ・合唱とオーケストラの関係をご紹介します。
オペラとオーケストラは、クラシック音楽の歴史の中で互いに影響を与え合い、共に発展してきました。オペラは1600年頃にフィレンツェで誕生し、モンテヴェルディの『オルフェオ』(1607年)が初期の重要な作品です(このオペラは悲劇なのですが後にオッフェンバックによって『天国と地獄』として喜劇に生まれ変わります)。バロック期には、楽器編成が整い始め、やっとオーケストラの原型が形成されました。18世紀後半から19世紀初頭の古典派の時代になるとモーツァルトの『フィガロの結婚』や『魔笛』で、オペラが発展していきます。これらの作品では、オーケストラが声楽と緊密に連携し、より豊かな音楽表現になりました。ペー

トーヴェンの交響曲 第9番「合唱付」(1824年)は、交響曲に合唱を取り入れた革新的な作品で、オーケストラと声楽の融合による新たな形態を示しました。ロマン派時代には、ヴェルディやワーグナーによりオペラの表現が成熟の域に入り、ワーグナーの『ニーベルングの指環』は、4夜に亘り繰り広げられる究極の総合芸術になります。オーケストラの規模も大幅に拡大し、劇的な効果を追求するため、バイロイトにワーグナーの作品のみを上演する劇場が造られました。20世紀には、プッチーニ、ストラヴィンスキー、ブリテンなどが現代オペラを発展させました。また、カール・オルフの『カルミナ・ブラーナ』は、合唱とオーケストラのための代表的な作品です。オペラ・合唱とオーケストラの歴史は、音楽の多様性と深みを象徴し、今もなお進化を続けています。

発売予定の公演情報

一般発売 10/11(金) 会員先行発売 10/4(金)~	12/20 第14回 稲沢名曲コンサート〈X'mas Night〉	【会場】名古屋文理大学文化フォーラム 【開演】19:00 【料金】全席指定 一般¥5,000 U25¥2,500
一般発売 10/2(水) 会員先行発売 9/30(月)・10/1(火)	25/1/11 第208回定期演奏会〈夢〜恋・幻覚・狂乱〜〉	【会場】愛知県芸術劇場コンサートホール 【開演】14:30 【料金】プラチナ¥7,000 S¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額
	25/1/12 超!有名曲シリーズVol.9『ウィーン』	【会場】愛知県芸術劇場コンサートホール 【開演】14:30 【料金】S¥5,000(Sペア¥7,000) A¥4,000(Aペア¥5,600) B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額(ペア席対象外)
一般発売 12/4(水) 会員先行発売 12/2(月)・3(火)	25/2/23 第209回定期演奏会〈新しい音世界〉	【会場】愛知県芸術劇場コンサートホール 【開演】14:30 【料金】プラチナ¥7,000 S¥5,000 A¥4,000 B¥3,000 C¥2,000 ※U25各席半額
	25/3/1 金城学院大学・セントラル愛知交響楽団ガラコンサート2024	【会場】東海市芸術劇場大ホール 【開演】14:30 【料金】全席指定 一般¥2,500 U25¥1,250
	25/3/22 オペラハイライトシリーズVol.3 ビゼー「カルメン」	【会場】愛知県芸術劇場コンサートホール 【開演】15:00 【料金】プラチナ¥7,000 S¥6,000 A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000 ※U25各席半額

ご支援のお願い

賛助会員・リスナー会員になると、チケットの優先予約・会員割引の優待が受けられます。



会員申し込みはコチラから

チケットシステムご利用のご案内

- ◆ 各公演のチケットは、ホームページの「チケットシステム」で、スマホやパソコンから購入可能!
- ◆ 24時間いつでも、自分で座席を指定してチケットを購入可能! ぜひご利用ください。



<https://yyk1.karuku.com/caso-s/showList?lf=0>

◎ 購入可能なチケットは、チケットシステムの「公演一覧」にてご確認ください。※定期メンテナンス中はサービスを一時停止します。

